

【分娩の流れをおさらいしよう！①】

はじめに

皆さんこんにちは！今回は3年前の奥先生の記事を基にお産の流れやチェックの仕方について再確認してみようと思います。

というのも、私事ですが10月末に第一子が誕生しました。コロナ情勢というのもありリモートでお産に立ち会いました。初めて見た人間のお産は想像を絶する光景で、牛のお産も実はかなりの一大事で母牛は本当に頑張って産んでくれているんだなと再確認しました。そこで今回はそんな大変だけれど日常茶飯事な牛のお産についていろいろまとめてみたいと思います。興味のある方はお付き合い頂ければと思います。



僕に似て太々しい子になってきました。

これからオムツ替えてもらうといふのにこのポーズと態度です(笑)

お産の流れと時間

牛のお産は大きく分けると以下の7段階に分けられます。

- ① そろそろ分娩かな？（エサ食いが落ちる・骨盤人靱帯が緩む）*写真参照
- ② 寝ていきむけどたまに起き上がる（陣痛開始）
- ③ 寝つきりでいきんでいる（大きく息を吸って、止めて吐くを繰り返す）
- ④ 陰部から大量の液体（バケツ3~4杯程）が出てくる（一次破水）*写真参照

- ⑤ ゆっくり足が出てくる（足胞露出）
- ⑥ 薄黄色～透明のドロッとした液体がバケツ1杯位出てくる（2次破水）
- ⑦ 胎仔の全身が出てくる



左が通常の牛、右が分娩が近い牛です。黄色い矢印が靱帯で右の牛は左に比べて2~3cmほど沈下しています。この状態から12時間以内に分娩が開始されます。



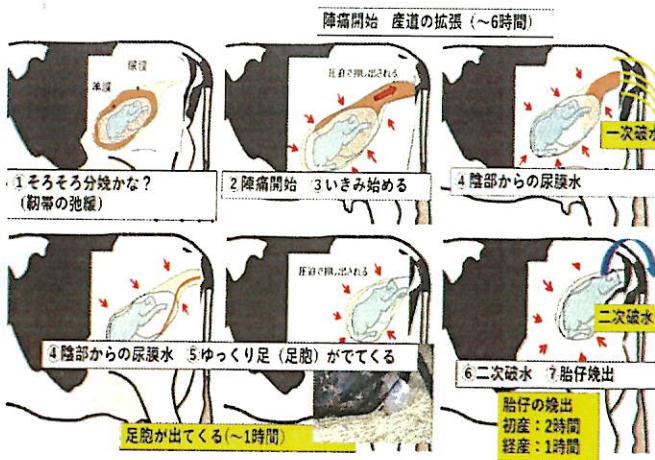
これは1次破水と2次破水の間です。床が濡れているのが1次破水が終わり大量の尿膜水が出た証拠になります。陰部から出ているのは足胞と呼ばれる羊膜（胎仔を覆っている膜）がまだ破れず足を覆った状態です。

正常なお産とは？？

おおまかにお産の流れがわかったところで、「では正常なお産とはどういうものか」についてお話しします。



Total Herd Management Service



先ほど説明した7段階を図と目安時間で解説していきます。

と、その前に！分娩というと子牛のことを考えて制限時間を意識しがちになってしまいますがお産の基本であり重要なことは「じっくり待つ」とです！！！！！

上記の図にも書いていますが、分娩のスタートから2次破水にかけて産道（子牛の通り道）はゆっくりゆっくり進行します。④や⑤の初期であせって引っ張ってしまうと

胎仔が出ない

胎仔が衰弱（最悪の場合娩出後死亡）

母牛の産道が傷つき、産褥熱→ケトーシス→四肢変位とまっしぐら（最悪の場合お産による神経麻痺で起立不能）

という3重苦を味わうことになってしまいます。（ちなみにこの3つの流れは分娩後の食欲不振や難産の診療後にけっこう出会います、、、）

自転車しか通れない細い道をトラクターで無理に進んでも、間違いなく道は崩れてトラクターもボロボロになるイメージです。

上記の図をみると、②～④まで6時間、⑤の一次破水から足が見えるまで1時間、⑥～⑦の足が出てから胎仔が娩出されるまで1～2時間かかります。これは制限時間であると同時に、「それくらいかけないと準備ができない」時間でもあります。

では具体的にお産が進んでいるのか？いつ何をチェックして分娩までゆっくり待つか？についてを最後にまとめてみたいと思います。

正常な分娩かどうかの判断は、先ほどの図で示した7段階を基に、4つのチェックポイントで確認ができます

- i) 陣痛開始から6時間たっても破水しない
- ii) 一次破水後1時間たっても陰部から足胞が出てこない
- iii) 足が見えてから初産で2時間、経産で1時間たっても子牛が生まれない
- iv) 陣痛の間隔が5分以上に延長する（全然牛がいきまない）・30分以上分娩が進まない

このどれかに当てはまる場合は即座に牧場で1番偉い人か獣医を呼んで責任を押し付けましょう！（笑）

これはとある農場のミーティングで奥先生が従業員さんに言っていたセリフです。（笑）とはつけていますが、これは本当にその通りだと僕も思います。先ほど、「じっくり待つ」「それくらいかけないと準備ができない」と説明しましたが、分娩異常が発覚した場合は制限時間のカウントダウンがスタートします。特に重要なことは「獣医は呼んでもすぐには来ない！」ということです。往診距離にもよりますが、連絡を頂いてからやはり20分ほどはかかることがほとんどで、もし胎仔が衰弱していた場合は待っている間に死んでしまいます。分娩異常に關しては「胎仔の状態や、産道の開き具合はよくわからないけれど全然進まないからとりあえず獣医呼んでおくか！」「引っ張れば出そうだけどなんとなく胎仔が大きさだからトライする前に一旦獣医に連絡するか」で全然OKです。獣医が向かっている途中で運よく産まれたらそれはラッキー！と思っていただければと思います。

そうは言っても、i) の最初の陣痛なんてどこからカウントして6時間なのかわからない！、ii・iii・ivでも、時間はかかっているけれどかなりゆっくり何とか進んではいるといったような「迷う」ことは多々あると思います。その時は直接子宮に手を入れて確認するほかありません。ベテラン農家さんの様に経験を積めば牛の顔つきや体の状態で凡そその進行具合を確認することはできますが、かなりの時間と経験が必要となります。

直接子宮に手を入れての確認方法を今回掲載すると更に記事が長くなってしまうため、次回に分娩についてのおさらいパート2として掲載します！

分娩をチェックする機会が多い方はそれまで今回掲載したお産の流れと所要時間に注意しつつ、何かあればすぐ獣医を呼ぶ！という流れでお仕事して頂ければと思います！ではまた次回



Total Herd Management Service